



宝くじ助成申請 空き家決定

ゲンコミは来年度末に稼働の県営二宮団地コミュニティルーム、広場での活動に必要な器具、備品を整えるため、財団法人自治総合センターのコミュニティ助成(宝くじ助成)申請を二宮町に提出した。助成総額は上限の250万円。申請は神奈川県を通じて上伸され、来年度末に採否が決まる。ゲンコミがマネジメントを担う同施設は規模が大きく、地域住民の健康・福祉、元気なコミュニティづくりの新拠点として期待されるが、活動に欠かせない器材類は老朽化し、不足品も目立つ。これらを「コミュニティ活動の充実・強化を支援する」目的の宝くじ助成で補うことができれば、新拠点のスムーズな立ち上げに寄与すると期待している。

申請の対象品はマイク拡声器、ポータブル音響セット、プロジェクター、スクリーン、メガホンセット、イーザーアップテント、スカットボールセット、カーテン、プリンターなど。新拠点は生涯学習、健康・体操講座、音楽など地域サークルなどの利活用を見込んでいる。ただ、ゲンコミや県営テラス自治会が持ち込む機器、器材では内外関係者の利用に支障が出る心配がある。申請に当たっては、事業主体、申請理由、期待できる効果、新製品の見積り根拠、管理保管態勢、直近の団体事業収支、活動実績などを細かく求められ、提出した文書は30頁ほどになった。宝くじ助成は現在工事中の老人憩いの家(百合が丘自治会申請、助成額190万円)や平成24年に完成した百合が丘1丁目公会堂で認められた経緯がある。



一方、この6月国交省に提出していたR5年度の空き家対策モデル事業については8月18日付で補助金交付決定通知書が届いた。上限額は2,094千円。計画では二宮、大磯地区でお試し移住、希望者と先輩移住者・地域のキーパーソンとの交流などを行う。

この事業は地域再生協議会時代を合わせると6年連続になり、空き家をめぐる地域事情も変わってきていることから、お試し移住を中心にした展開の総仕上げになると見られる。近く空き家対策部会(廣上正市部会長)を開き、事業の詳細、今後の方向を議論する。

やまゆり合唱団、新春の集いにも

にのみややまゆり合唱団(前野昌利団長)は来年1月5日(金)、二宮町がラディアンで開く「新春の集い」に出演することになった。町からも要請があったもので、大多数の団員が登壇する。

合唱団は10月14日(土)のやまゆり里山音楽祭、11月3日(金)の二宮合唱祭への参加が決まっており、今月12日(土)には百合が丘納涼祭にも出演した(写真)。合唱団は毎月2回の練習を重ねており、手持ちの曲数も多くなっている。「地域を盛り上げる」を活動目標の一つにしていることもあり、今後も「要請があれば積極的に応じて行きたい」(三浦憲門音楽活動部会長)。